

全酪連会報 5

2022 MAY No.680

酪農とのかけはし／大内 智之さん

購買生産指導部だより／(株)日本ミルクプレイサー竣工式

日本酪農見て歩紀／

山田牧場(福島県石川郡石川町)

一般社団法人全酪アカデミーに3人の研修生が入職

酪農トピックス／

全酪連北関東セミナー・ウェビナー形式で

開催(哺乳ロボット事例紹介)!(東京)



www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/



全国酪農業協同組合連合会

酪農との かけはし



第37回 (有)ナチュラルデイリー

酪農とともに 歩んできた35年

代表取締役社長
大内 智之さん

(有)ナチュラルデイリーについて

まずは、この会社が発足するまでの歴史からお話しさせていただきたいと思います。そもそもの始まりは、私自身が酪農家の息子で、私含め、その当時兵庫県明石市の酪農家の皆で全酪連の飼料を使うことになったのがきっかけでした。当時、明石市の酪農家は皆、全酪連の飼料工場や供給センターがあつた小野市まで飼料を取りに行かなければなりませんでした。しかし、飼料を運搬する車両を持ってい



大内社長

る酪農家は少なく、頻繁に配送するには不便な状況でした。ある時、なかなか飼料を取りにいけない人たちのため、すでに運搬手段があつた私が代わりに飼料をまとめて取りに行き、小野市から明石市の農家さんへ配達し始めました。一酪農家として配達を続けていくうちに、次は組合の仕事として配達業をし始め、徐々に配達を依頼してくださる農家さんも増えていきました。さらに、豆腐粕といった飼料の販売も行うようになり、仕事の規模と幅は広がっていきました。それに伴って人員も増やし、法人化したのが現在の(有)ナチュラルデイリーの始まりです。言わば、「酪農から自然発生した会社」と言えますね。

業務内容

私たちの仕事は、大きく分けると

2種類あり、一つ目は、輸入乾草、配合飼料、単味飼料といった牛用飼料の配送業務。二つ目は、混合飼料の製造業務です。配送業務については、この会社が出来てかなり早い段階で、酪農家直行で飼料を納品する仕組みを作りました。輸入乾草のコンテナを直接酪農家に持ち込み、乾草を納品する作業等です。

混合飼料の製造については、約20年前に全酪連から依頼を受けて業務が始まりました。自家配合飼料を農家さんに代わって製造し、それぞれの農家さんへの配送までを一貫して行うことができるのは、この会社の大きな特徴であり、強みとなっているのではないのでしょうか。これまで多くの混合飼料銘柄がこの場所で生まれ、たくさんの農家さんに使用していただいています。コストを抑えた混

合飼料を使いたい、自分の農場の給与体系にマッチした混合飼料を使いたい、等、混合飼料を使用する目的は様々です。酪農家ごとの要望に合わせた混合飼料を全酪連と協力しながら日々製造を行っています。

業務を行う上で心がけているのは、配送にしても、混合飼料の製造にしても、常に農家さんの事を考え、作業を行う事です。社内では、飼料の先入れ先出しはもちろんの事、飼料倉庫内の在庫状況の把握と迅速な受発注業務、丁寧な飼料の積み込み作業等に細心の注意を払っています。熱発などの品質劣化のクレームが少ないのはこれらの対応の成果だと思っています。各酪農家での作業で言えば、納品場所の確認や飼料の使用量の把握を小まめにする事で農家さんが安心して飼料を使っていたできるようにしています。



大内 智之さん の 1日のタイムスケジュール

7:00 ▶

点呼、一日の流れ等を確認するための
業務打合せ、出発

7:30 ▶

配送業務
(乾草・配合飼料・
代用乳等)

15:00 ▶

事務所にて翌日の
飼料積み込み作業

17:00 ▶

作業終了次第退勤



大内社長と従業員の方々

また、納品をする上で、天候の確認や作業時間の調整、飼料を古いものから順に使ってもらえるように配置を考えて納品を行う事等、些細な気遣いも忘れません。当たり前のことかもしれないませんが、このような二つの仕事を丁寧に対応してきた事が、長年多くの酪農家さんと私たちがお付き合いさせていただいていることに繋がっているの

自身の仕事と酪農とのかわり

ではないかと思っています。

冒頭にもお話ししましたが、この仕事、会社に関わるきっかけは私自身が酪農家であったことです。もし私が酪農家でなければ恐らくこの仕事はしていなかったと思います。酪農家だったからこそ牛用飼料の配送や製造・販売に目を向け、配送業者として酪農家と今でも関わり続けています。この仕事をする者がいなければ、酪農家は大切な牛に対して飼料を与える事が出来なくなってしまう。日ごろ、配達先で農家さんとお会いした際は、こちらから直接コミュニケーションをとることもあれば、全酪連のスタッフさんを紹介して各農家さんの現状を把握することも多々あります。配送という観点から、酪農家の皆さんがより安心して酪農業を出来るように支えていくのが私たちの仕事だと思っています。そし



輸入牧草のコンテナデバン作業



整理整頓された倉庫内



混合飼料製造

この仕事のやりがい

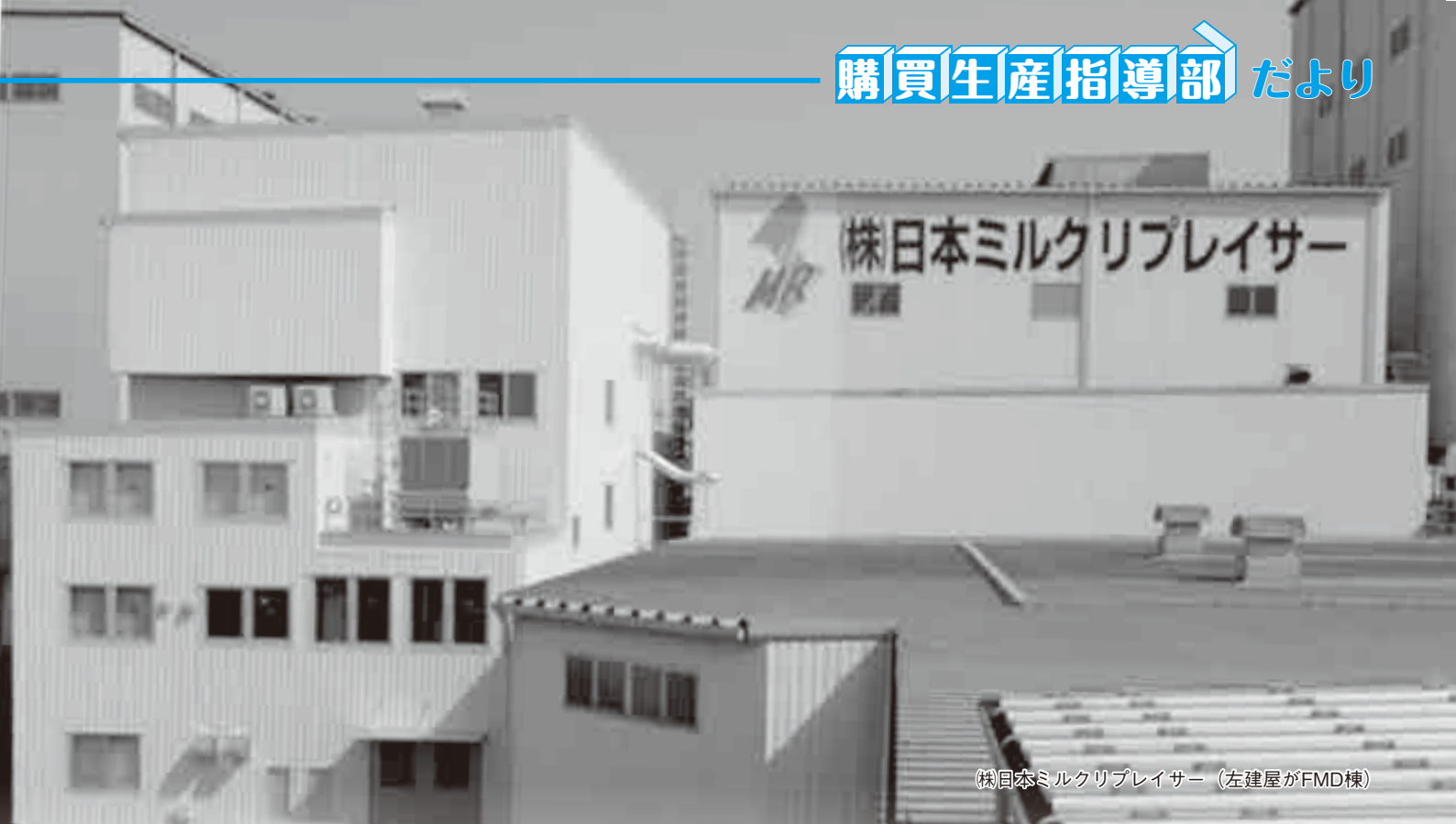
やはり、酪農家の皆さんから頼りに

て、何より酪農家の皆さんがいなければ私たちの仕事は成り立ちません。皆さんが毎日頑張っていてくださるからこそ、私たちは飼料を配達しに行くことが出来ます。混合飼料の製造作業を行うことも出来ます。酪農家の皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、今後もこの仕事に向き合っていきたいながら酪農と関わっていきたいと思っています。

していただいていることが、この仕事のやりがいと言えるのではないのでしょうか。この仕事をしているのが当たり前となつているので、正直改めて仕事に対してのやりがいについて考えると回答するのは難しいのですが、先にお話ししたように、酪農家への飼料配達を代行し始めた時から、自分が配達を行うことによって酪農家の役にたっているという部分に大いにやりがいを感じ、今でもこの仕事を続けているのではかと思っています。(近畿 金子)

全国の酪農家に 一言!

ここ最近飼料価格が高騰し、酪農家の皆さんにとって厳しい状況が続いていると思います。このような時だからこそ長年携わってきた配送業を通じて、ほんのわずかでも酪農家の皆さんを支えられる存在になれるよう、これから先も頑張っていきますのでよろしくお願いします。



(株)日本ミルククリプレイサー (左建屋がFMD棟)

(株)日本ミルククリプレイサー 竣工式

皆様の大事な子牛たちにご愛飲いただいております子牛用代用乳「カーフトップ」シリーズの製造工場である(株)日本ミルククリプレイサーで進められていたフィルターマッドドライヤー(FMD)増設工事が完了し、令和4年3月29日に竣工式が執り行われました。

1 全酪連と代用乳の歴史 及び本工事について

全酪連と子牛用代用乳との関係は昭和42年から始まりました。当時、日本国内の酪農が振興してくるのに伴い、乳価も上昇しており、それまでの全乳哺育では経済的なロスが大きいため、全乳哺育に代わる代用乳の開発が必要に迫られておりました。酪農家の期待に応え、全酪連は研究開発の末、昭和42年(55年前)に全酪連横浜飼料工場にて、スプレードライヤー方式で油脂を含ませた代用乳を製造し、供給を開始しました。これが日本で初めての牛用代用乳であり、その時の製品名が今でも使われている「カーフトップ」です。本製品は酪農家の経営に非常に貢献し、需要が増えたことから昭和57年に千葉の関東飼料工場に移設しFMDを始めて導入しました。その後、茨城県神栖市の鹿島飼料工場に移転し、平成17年(2005年)4月、全酪連と日清丸紅飼料(株)との合併による(株)日本ミルククリプレイ

サーを設立しました。設立から早17年、品質を重視した製造により「カーフトップ」シリーズは多くの会員に愛用されてきました。これらの培ってきた信頼に加え、昨今では「強化」哺育技術の普及と品質の良さからさらに需要が高まってきたことから、今般のFMDの増設により、製造数量の増加を図り、引き続き良品質な「カーフトップ」シリーズを皆様にお届けできるところとが期待されることです。

2 竣工式、祝賀会について

竣工式は、鹿島神宮の神主にて執り行われました。式には全酪連隈部代表理事会長を筆頭に、日清丸紅飼料(株)宮内代表取締役社長、(株)日本ミルククリプレイサー小谷代表取締役社長他、施工にあたった業者、関係者ら計37名が参列しました。式後、参列者を代表して、隈部会長、宮内社長、小谷社長、(株)日本ミルククリプレイサー安田工場長、当該設備の施工業者のOMC(株)尾上稔代表取締役、(株)イズミ

フードマシナリ 吉本圭司代表取締役
によるテープカットが行われました。

竣工式に引き続き祝賀会が執り行
われ、(株)日本ミルクプレイサー小谷
社長より、

「当社では先人の方たちのたゆまぬ
研究開発、品質改良により品質第一で
製造を心がけてまいりました。今回の
工事の際しましては多くの方にお世話
になり、コロナ禍で行動の制限がかか
る中、安全第一で順調に1年間の工期
を終え、無事に竣工することができ、
そして、このように皆様をお迎えして
祝賀会を開催することができました。
今回の増設を機にますます生産者の
期待に応えるべく品質重視で製造を
続けてまいります」

とのご挨拶がございました。また、
来賓を代表して、全酪連隈部会長より、
「私は全酪連の会長でもあります
が、地元熊本に帰れば一酪農家でもあ
ります。当然ながら、全酪連の代用
乳製品を使用しており、その品質に
は大変満足しております。酪農家
仲間も同様の評価をしており、このた
びの増設を機にますますの品質の向
上と安定供給体制の確保をお願いし
たいと思います。現在、酪農乳業界で
はコロナ禍により、先の年末年始には

生乳の加工処理が間に合わず、廃棄
乳が発生する可能性があります。が、
皆様のご協力があり回避することが
できました。しかし、今後も学校が長
期休暇となる時期には処理不可能乳
が発生する可能性があります。酪農家は
窮地に立たされております。引き続き
牛乳、乳製品の消費拡大に皆様のご
理解とご協力をいただきたい」
とのご挨拶がありました。

式中ではOMC(株)、(株)イズミフード
マシナリ、中山環境エンジニア(株)、東京ガ
ス(株)に対して、隈部会長から感謝状
が贈呈されました。祝賀会ではお互い
に労い、歓談し懇親を深めました。
「カーフトップ」販売から55周年と
なる今日まで、会員の皆様の期待に応
えるよう、全酪連並びに(株)日本ミル
クプレイサーは品質第一に代用乳製造
に取り組んできました。昨今では、優

秀な乳牛は子牛からと考え、代用乳
から育成飼料、乳配飼料へと牛の未
来を考えた飼料の供給を意識し取り
組んでおります。今回の増設も含め、
お手元に高品質の製品をより早く供
給するべく、全酪連職員一同、(株)日
本ミルクプレイサー社員一同更なる努
力を重ねてまいります。ぜひ、今後と
も未来のエース乳牛のかわいい子牛た
ちにご愛飲いただければ幸いです。



テープカット



祝賀会 隈部会長挨拶

山田牧場
福島県石川郡石川町

地域のみなさんと歩む酪農

地域の紹介

今回訪問させていただいた山田牧場は、福島県酪農農業協同組合（紺野宏代表理事組合長）に所属し、福島県石川郡石川町に在ります。石川町は福島県の中通り南部、阿武隈高地の西側に位置し、平安時代から開けてきた歴史のある町です。数多くの桜の名所がある町で、町内を流れる北須川や今出川沿いには約2,000本の桜があるとのこと、その並木は石川の街を縁取ると言われるようです。名木としては「高田の桜」「古内の桜」などが有名で、後述する「和泉式部」の名前がついた桜も有るそうです。

石川町には温泉が4つ有り、「母畑温泉」や「猫啼温泉」は有名です。平安中期の女流歌人・和泉式部は石川町で生まれたとの伝説があります。美しく成長した式部が上京することになり、愛猫「そめ」は

取り残され啼き続けて病気になるしましたが、泉に浴したところ病は癒えました。里人はその効能に気づき湯治場を設けたのが「猫啼温泉」とのことです。

石川町の産業は農業が盛んですが、稲作を中心に畜産、野菜、果樹の複合経営が多いようです。町内には8戸の酪農家が在るそうです。

山田牧場の沿革

山田牧場は、ご主人の英司さんのお祖父さんが、戦後乳牛を導入



▲ 山田さんご夫妻



▲ 牛舎の遠景





▲ 牛舎内部

されて酪農が始まったそうです。そして昭和50年頃にお父さんの英重さんへ代替わりされました。英司さんは会社勤務を経て平成7年に山田牧場3代目として就農されました。就農当時は自宅敷地内に3棟の牛舎があり、搾乳などで苦労されたようです。平成9年11月に現在の牛舎が完成。自宅から200mくらいの所に移転・新築されましたが、土地は山田さんの所有ではなかったそうで、近所の方が「英司が酪農

をやるならば」と快く草地を交換してくださったそうです。英司さんが23歳のときでした。英司さんが就農後、お父さんは会社勤めを始められたそうで、英司さんは全面的に酪農を任せましたが、初めの頃は事故などもあって牛舎で泣いたこともあったそうです。家族に支えられ、地域の酪農の先輩方に支えられ乗り越えてきたとのこと。

山田牧場の概況

山田牧場の飼養頭数は、平均的に経産牛44頭、育成牛は子牛も含めて20頭となっています。牛舎は対尻式のタイストール牛舎で、パイプラインミルカー、バーンクリーナーそして自動給餌機が設置されています。牛床は44床、生乳生産量は年間43万44万kgとのことで、経産牛1頭あるいは1牛床から約1万kgを生産していることになります。自給飼料はイタリアンとオーチャードの混播牧草を7ha作付けし、ロールパックサイレージで収穫しています。他に水稻を1.3ha作付し、食用米として販売しているそうです。労働力は英司さん、奥さんの克枝さん、ご両親の英重さん、ヒロ子さんの4名

で作業をし、主な作業分担は、ご主人・お父さんが作業全般、奥さんが搾乳・飼料給与・清掃、お母さんが搾乳・哺育とのこと。また、地域の高校生が牛の勉強をしたいと、休日を利用し、アルバイトで手伝いに来てくれるそうです。ちよつと驚きですが、すでに5〜6人が来てくれて送り出したとのこと、和牛繁殖や和牛肥育に就農した人もいるとのこと。

飼養管理の特徴

山田牧場では、やはり自動給餌機による飼料給与が飼養管理の中心になっています。自動給餌機は牛舎新築当時から導入していましたが令和3年に更新したそうです。給与回数には1日最高で6回、最大給与量は15kg程度、給与する配合飼料は1種類とのこと。購入粗飼料はアルファルファ、オーツ、クレイン、町内から稲WCSをロールで年間250個購入、自給飼料と合わせて粗飼料の給与も1日6回だそうです。

また、特徴としては、ほぼ100%自家育成で、搾乳素牛の導入は行っていないとのこと。種雄牛の選定は全て県酪農協の獣医師さんにお任せ



▲ 自動給餌機

とのこと。その信頼関係と育成技術で1万kg牛群は維持できているものと思われ。牛舎に並ぶ牛は体格も良く、揃い性も良い印象でした。英司さんは取材中何度も「牛さんのおかげ」と仰いました。一番の驚きは4年前に見事なご自宅を新築されたのですが、自分の山林から切り出した材木を使い建てられたとのこと。「ご先祖様や牛さんのおかげ」だそうです。

地域のみなさんと歩む

山田牧場は、石川町「王子平」地区に在り、王子平地区に限った話ではありませんが、既に紹介しました、近所の方が草地を交換してくだ

さつて牛舎を新築したこと、地域の高校生が手伝いに来てくれること、町内の稲WCSを購入していることなどの他にも地域との係わりはたくさんあるそうで、共同組織ではないのですが、牧草の収穫時には地域の人々が声を掛け合い手伝いに来てくれるそうです。牧場には遊具等もあり、地域の子供たちが遊びにきてくれるとのこと。ご自宅の裏山には山田さんが土地（以前は草地）を提供してグラウンドを整備し、毎年地区の運動会が4組対抗で開催されます。そのグラウンドには桜が植えてあり、酪農家仲間で見え開いたり、地区内の清掃作業などではバックフォアやトラクターなど機械類を貸出し、地域の水田16haに堆肥散布、そしてその水田から稲わらを収集するなど地域との係わりがたくさんあるようです。

堆肥散布と稲わら収集は単純には稲わら交換ですが、地域の低農薬栽培米の生産に貢献し、稲わらは敷料として非常に重要とのこと。2019年の19号台風で大水害を受けた時は、稲わらが入手できず大変困ったそうです。このようにお話を伺うと、1戸の酪農家が地区内に



▲ 子供たちの乗物

存在することによって、耕畜連携、稲作なども維持されて、山田牧場は地域のみなさんの良き理解を得て酪農ができていられると思われま。地域のみなさんと山田牧場が暖かい繋がり動いている、正に地域のみなさんと歩んでいる酪農と感じます。英司さんからは、地域と地域のみなさんに感謝する気持ちが、ひしひしと伝わってきました。

今後の目標・取組み

英司さんは現状維持の規模で、魅力ある経営を継続して行きたいと仰つ

ています。子供さんは三人姉妹とのこと、誰か酪農をしたいということであれば、全面的に応援するとのことでした。継ぎたいくなるような魅力的な経営でありたいということです。

水田も1・3ha作付けされていることは前述しましたが、低農薬の山田米として固定した個人消費者向けに、もう何年も販売できているそうです、もっと欲しいとの希望もあるようです。そんなこともあって、酪農と稲作を合体させた法人化に取り組みたいとの目標を持っておられました。ご両親もいずれ引退されるであろうし、雇用も検討する必要があるだろうとのこと。

また、地域において遊休地は増やしたくないとの目標をもっておられます。個人経営のライスセンターも高齢化が進み作付けが減少することも想定され、法人化によりその受皿になることも考えておられるようです。耕畜両輪がしっかり回ることを考えておられます。

終わりに

お忙しいところ取材にご協力をいただきました。感謝申し上げます。山田さんご夫妻はほのぼのとした暖かい感じの方です。ご家族もみんな仲が良いとお話もうなずけます。そして、地域の人々もほのぼのとした感じの人々と想像できます。山田牧場のみなさんと王子平をはじめ地域のみなさんのますますのご健勝と、山田牧場と地域のますますのご発展をお祈りいたします。



▲ 今年も咲きました！グラウンドの桜

一般社団法人全酪アカデミーに 3人の研修生が入職

一般社団法人 全酪アカデミーは、4月1日、東京・代々木の酪農会館で
令和4年度採用研修生の入職式を執り行いました。



▲ 採用された研修生(写真の中央3名)と一般社団法人全酪アカデミーの役員、運営委員、事務局員

令和4年度は、佐々木雄太さん・真理子さんご夫妻、竹田純真さんの3名・2組が全酪アカデミーの研修生として採用されました。入職式では同法人の北池隆理理事長から、「焦らずじっくりと着実に研修を進めてほしい」と激励の言葉を送り、全酪連隈部洋代表理事会長は、「酪農産業は、酪農が持つ循環型農業が環境や国土保全に貢献しているため、なくてはならない必要な産業だ」と話し、酪農家を志す3名の研修生を祝福されました。今後3名は全酪連関連牧場で1年間の基礎研修を行い、2年目以降は全国の賛助会員組合員の契約農場（酪農家）で実践研修を行い、3年後の令和7年4月の酪農就農を目指します。

一般社団法人全酪アカデミーは、後継者不足による酪農従事者の減少などへの対策として全酪連と全国酪農協会が昨年8月に設立した組織で、酪農就農を志す人を3年間雇用し、就農支援プログラム（教育カリキュラム）に基づき、全酪連関連牧場や賛助会員組合員の契約農場（酪農家）での実地研修や、酪農就農までに習得したい基本的な知識、農協組織、生乳取引、畜産に関する法令、畜産経営など多岐に渡る分野の座学研修を実施します。さらに、研修期間中には、就農活動としての就農地の確保、事業計画策定、事業継承など賛助会員と連携し、多面的なサポートを行ないます。今期採用された3名の研修生には、充実した研修を期待するとともに、我が国の酪農を担っていくような酪農家に一日でも早く育ってもらえるよう願って止みません。



▲ 前列左から順に竹田純真さん、佐々木真理子さん、佐々木雄太さん
後列左から順に全酪アカデミー三国理事、北池理事長、全酪連隈部会長、
全酪アカデミー大森理事

東京
支所発全酪連北関東セミナー・ウェビナー形式で
開催(哺乳ロボット事例紹介)!

3月30日(水)全酪連北関東事務所主催『北関東セミナー』を管内農家・会員向けにウェビナー形式で開催しました。コロナ禍において2年ぶりの開催となった今回の内容は「哺乳ロボットの事例紹介」として群馬県・埼玉県の3軒の設置事例農家を紹介しました。講師として北関東管内で哺乳ロボット設置を多数手がけております『ファームエナジー合同会社』の川島強志代表社員に依頼し、哺乳ロボットの設置・稼働におけるポイントを具体的に説明いただきました。紹介牧

場のうち2軒は全酪連担当者が事前に農場訪問し聞き取りした内容をパワーポイント形式で紹介し、残り1件については、川島講師立ち合いのもと現場より生中継をおこない実際に稼働させた様子などをリアルに紹介しました。多くの視聴登録があり、哺乳ロボットを設置している方、設置を検討している方からたくさんの質問をいただき、充実した内容でセミナーを終了することができました!ご協力いただいた3軒の農家と川島講師に感謝します! (Y.K)



▲ 質疑応答確認中



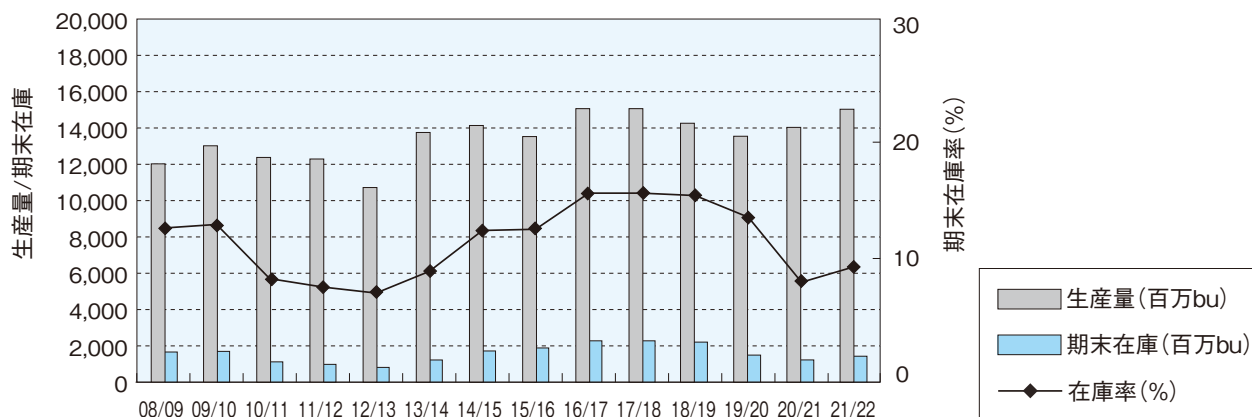


原料情勢

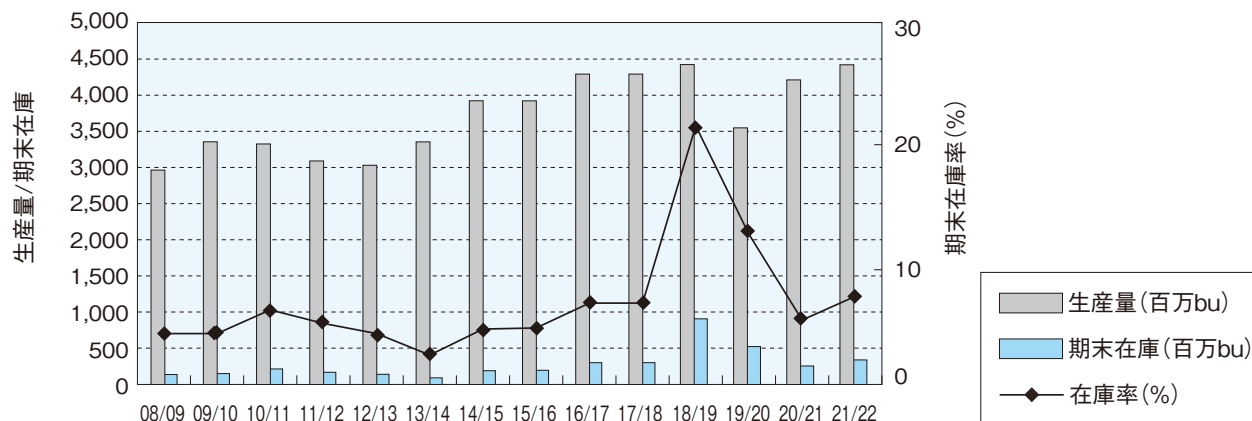
令和4年4月

		20/21年産	21/22年産
4月8日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	90.7	93.4
	単 収(ブッシェル/エーカー)	171.4	177.0
	生 産 量(ブッシェル)	141億1,100万	151億1,500万
	需 要 量(ブッシェル)	148億2,100万	149億3,500万
	期末在庫(ブッシェル)	12億3,500万	14億4,000万
	在 庫 率	8.33%	9.64%
トウモロコシ 相場動向	3月のシカゴ相場は引き続きロシア・ウクライナ情勢を受けて高騰している。また3/31に発表されたUSDA作付意向面積では市場予想を下回る結果となり、シカゴ相場は堅調に推移している。4月USDA報告では期末在庫は据え置きで落ち着いたが需給環境はタイトであるため、しばらくシカゴ相場は高値で推移すると見込まれる。		
大豆粕相場動向	天候不順に伴う南米産大豆の減産により原料輸入大豆のシカゴ相場が堅調に推移しており、また、中国産大豆粕の在庫量が低水準で現地価格が高止まりしていることから、国内、輸入ともに相場は引続き堅調に推移している。		
糟糠類	【一般フスマ】 ふすまの発生量は引続き減少傾向にある一方で、逼迫する他糟糠類との兼ね合いから引合いが強いため出荷制限は継続されている。		
	【グルテンフィード】 スターチメーカーが春先より稼働期に入り国産の供給は安定しつつあるものの、内航船運賃値上げや、中国産の発生が低調で現地相場は高値を堅持していることから、相場は底堅く推移している。		
海上運賃	3月後半～4月頭に掛けては中国の鉄鉱石需要低迷から荷動きが鈍化していたことで弱含む展開が続いた。今後はウクライナ情勢緊迫化を受けて、インドネシア出し欧州向けの石炭の荷動きが活発化するなど、輸送需要が急増する可能性があり、海上運賃は徐々に上昇していく見込み。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



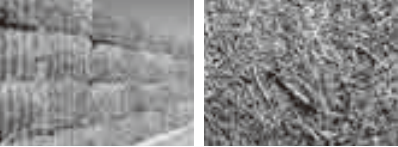
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和4年4月

北米コンテナ船情勢	4月9日にロサンゼルス港から発表された報告によると、ロサンゼルス港及びロングビーチ港沖合におけるコンテナ本船の滞船は44隻となっています。年始の1月9日の109隻をピークに滞船数は減少しており、日本向けの本船スケジュールも改善傾向にあります。沖合での滞船数も減り、ピーク時は1カ月程度かかっていた日本までの航海日数は直近では25日前後となっています。また混乱が続いていたアルファルファ、チモシーが多く出荷されているPNWのシアトル、タコマ、バンクーバー港も改善の兆しが見えています。バンクーバー港では引き続き混雑が解消できず滞船が続いているものの、一部のターミナルでは冬期の荒天によって低下していた荷役効率も回復し、減便していた日本向けの本船数も徐々に回復しています。産地輸出業者も1～2月は出荷に苦慮していましたが、3月に入り出荷数量は増えており、年末年始に直面した最悪期は脱した感があります。一方で積替港である上海・釜山・高雄・台北等では混雑が続いています。船社によっては10日から3週間程度、積替港でコンテナが滞留しているため、地方港向けを中心に引き続き不安定な入船状況になっています。今年は北米西岸港湾労組（ILWU）と船社・ターミナル会社の使用者団体（PMA）間で労働協約更新の年となります。7月1日の契約満了に先駆け、5月12日から交渉が開始される予定ですが、交渉が難航し長期化すると、前回2014-15年の労使交渉時に直面したような西海岸全域の港湾混雑につながる恐れがあるため、今後交渉経過には注視が必要です。
ビートパルプ	【米国産】 21-22年産は生育期及び冬期の保管期の天候に恵まれたため、製糖工場では生産が続いています。産地では、21-22年産は国内外の旺盛な引き合いから、余剰はなく全て制約済みとなっています。3月末にUSDA（米国農務省）から発表となった、22-23年産における米国産ビートの予想作付面積によると、一部の主産地で換金性が良い他作物への転作が見られたものの、全体としては、ほぼ前年並みとなる、前年比99%の1,143,400エーカーとなりました。主産地では播種作業が開始されましたが、従来ロシアからビートを輸入していた、ヨーロッパ諸国がロシア産の手配をできなくなったことから、米国産への引き合いが強くなっており、播種完了前に既にヨーロッパ向けに22-23年産のビートの一部が成約されている状況です。
アルファルファ	【ワシントン州】 現在、21年産の産地在庫は成約済みとなっており余剰はない状況です。主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは、5月から22年産1番刈の収穫が本格化する見込みです。22年産の作付面積は昨年来、相場が堅調なことから作付け意欲は比較的高く生産者によっては作付面積を増加させています。 【オレゴン州】 同州南部クラマス郡では2月の積雪量が昨年比およそ60%まで減少したことを受け、州知事より3月初旬に早魃の緊急事態宣言が発出されています。加えてクリスマスバレーが位置するレイク郡についても、既に厳しい早魃状況となっており、今後、農業用水使用の制限がかけられる可能性があり、22年産の生産への影響が懸念されています。  ▲オレゴン州における早魃状況比較 左:22年4月、右:21年4月 出典:U.S.Drought Monitor 【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、22年産1番刈の収穫が終盤を迎えており、一部の圃場では2番刈の収穫が開始されています。これまで天候に恵まれたことから、1番刈で分析値の高い高級品が多く発生しています。今後2番刈の収穫が本格化されますが、比較的冷涼な天候が続いており、2番刈も高級品中心の生産が期待されています。一方産地では、好調な乳価を背景に米国内需と中国による旺盛な買付が行なわれており、高級品の相場は高騰しています。現在も毎週のようにt当たり5ドルから10ドルの相場上昇が続いている状況で、今後も相場には注視が必要です。  ▲インペリアルバレー産アルファルファ1番刈(3/16撮影)
チモシー	【米国産】 産地輸出業者によると、22年産の作付面積は主産地であるワシントン州では概ね昨年並みも地域によっては若干減少しています。減少した地域は換金性の良いトウモロコシや小麦などに転作されている状況です。もうひとつの主産地であるアイダホ州は昨年並みの作付面積が予想されています。22年産1番刈の収穫は6月より順次開始されますが、非灌漑で栽培するアイダホでは生育期の降雨が望まれています。 【カナダ産】 主産地であるアルバータ州クレモナ地区及びレスブリッジ地区における22年産の作付面積はほぼ前年並みになることが予想されています。一方で肥料価格が高騰しているため、生産者によっては施肥量を抑えることを考えており、単収への影響が懸念されています。
スーダングラス	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、早播品の播種作業が開始されています。産地では、好調な相場を背景に競合作物である小麦が作付面積を拡大する半面、スーダンの作付面積は伸び悩んでおり、産地灌漑局から発表された4月1日付時点のスーダンの作付面積は13,987エーカー（前年13,773エーカー）とほぼ、前年並みとなっています。今後播種作業が本格化するため、引き続き作付面積には注目する必要があります。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 産地灌漑当局の発表によると3月15日時点での22年産の作付面積は19,323エーカー（前年19,683t）と昨年同期比98%の作付けとなっています。小麦をはじめアルファルファなど他の作物に比べ換金性に劣ることから、生産者におけるクレイングラスの作付け意欲は高くない状況です。生育状況については、圃場への散水作業も随時行われ、順調に生育しており4月下旬から1番刈の収穫が開始される見込みです。
バミューダ	主産地であるインペリアル群灌漑局の発表によると、3月15日時点での22年産の作付面積は61,503エーカー（前年同期：62,119エーカー）と前年比99%とほぼ前年並みとなっています。例年春先は主に種子向けに収穫が行なわれ、牧草の収穫は夏場から本格化します。
オーツヘイ	【豪州産】 産地輸出業者によると、現在22年産の播種作業を前にオーツヘイの仮契約に向け生産者との間で協議が行われていますが、各生産者オーツヘイの作付面積を減少させる見込みとなっています。肥料代や燃料代といった生産コストが高騰するなか、生産者はより換金性の高い作物に興味をもっており、ロシアによるウクライナ侵攻により、菜種や小麦の相場高止まりしている中で、オーツヘイからの転作を考えている生産者が多い状況です。
豪州の海運情勢	引き続きコンテナ不足や不安定な本船スケジュールのなか、輸出業者は船腹確保に苦慮しており、不安定な入船スケジュールが続いています。加えて海上運賃についても引き続き上昇が続いており、豪州産オーツヘイ価格を押し上げています。

第50回 全国酪農青年女性 酪農発表大会 in 東京

令和4年

7/14(木)▶15(金)

特別記念講演

スイミングアドバイザー / スポーツコメンテーター

岩崎 恭子氏



1992年バルセロナオリンピック
200m平泳ぎ金メダリスト。
現在は水泳の指導や普及活動、コメン
テーターとして活躍中。

日程

7月14日(木)

13:00~13:50 開会式
13:55~16:15 酪農経営発表
16:15~16:25 らくのうこどもギャラリー表彰式
16:40~18:15 酪農意見・体験発表
19:20~21:30 懇親会

7月15日(金)

9:00~10:10 特別記念講演
10:25~11:35 審査講評・表彰式
11:40~11:45 新旧役員紹介
11:45~11:50 閉会式

大会参加費

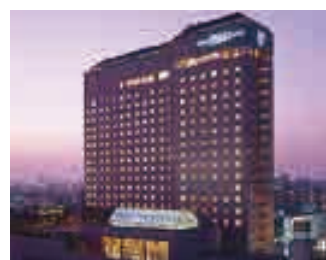
1名 5,000円 (大会のみ) 1名 15,000円 (大会・懇親会まで)

※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。

大会会場・アクセス

◆ 会場・宿泊

「ホテルイースト21東京」
〒135-0016 東京都江東区東陽 6-3-3
TEL. 03-5683-5683 (代表)



◆ アクセス



- 最寄駅
東京外口東西線「東陽町駅」1番出口から徒歩7分
- 鉄道の場合
東京駅よりタクシーで約15分
- 車の場合
東京駅より約15分
羽田空港より約60分
成田空港より約60分
- 飛行機でお越しの場合
成田空港・羽田空港よりリムジンバス運行

大会事務局

全国酪農青年女性会議

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
全酪連 総務部 組織対策課 内 / TEL. 03-5931-8003

作品募集のお知らせ

第48回 らくのう こどもギャラリー

① 募集規定

- (1)酪農を中心とした題材の図画（大きさは自由）
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、題名・住所・氏名・振り仮名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。
- (4)作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

② 応募資格

4歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

③ 締切日

令和4年5月20（金）（必着）

④ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

⑤ 審査結果の発表

「第50回全国酪農青年女性酪農発表大会」の発表要旨、および全酪連会報7月号に審査結果を掲載いたします。

⑥ 褒賞

- ・特選 1点
 - ・入選 4点
 - ・秀作 若干
 - ・ファミリー賞 若干
（牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を持つ作品に贈られます）
 - ・あすなる賞 若干
（小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます）
- ◎入賞者には記念品を贈呈いたします。
◎図画の優秀作品は、作者の顔写真・審査講評と共に「全酪連会報」の最終ページに掲載します。



第47回 特選
「うしさん、おおいな」
荒 勇翔さん

第12回 酪農いきいき フォトコンテスト

全国酪農青年女性会議では、酪農家の生活や牛乳の生産現場をより鮮明に消費者に伝えていくことを目的に、「酪農いきいきフォトコンテスト」を実施します。

つきましては、下記のとおり作品を募集しますので、ふるってご応募いただきますようお願いいたします。

① テーマ

- (1)「乳牛のいる風景」
 - (2)「酪農作業風景」
- ※いずれも、酪農家がいきいきと牛乳生産に励む様子や、安心安全な牛乳生産のため懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。

② 募集規定

- (1)写真は可能な限りデータで提出してください。
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、題名・氏名・振り仮名・住所・所属組合名を必ず記載してください。

③ 応募資格

酪農家

④ 締切日

令和4年5月20（金）（必着）

⑤ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

⑥ 審査方法

応募作品を「第50回全国酪農青年女性酪農発表大会」の会場内に掲載し、大会参加者の投票による審査を行います。
※応募多数の場合は事務局による予備審査を行います。

⑦ 審査結果の発表

- (1)「第50回全国酪農青年女性酪農発表大会」にて発表します。
- (2)「全酪連会報」の表紙に使用します。（号数未定）

⑧ 褒賞

- ・特選 1点
 - ・入選 若干
- ◎入賞者には賞品を贈呈いたします。
◎提出していただいた作品の返却はいたしません。
◎応募していただいた作品は、全酪連会報およびカレンダーへの掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動（「父の日に牛乳を贈ろう！」キャンペーン含む）等で使用することがありますのでご了承ください。



第11回 特選
「こちらの哺乳瓶からも味見」
川野 平氏 撮影

提出先一覧

●北海道酪農青年女性会議

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1
酪農センター5階 全酪連札幌支所内
TEL 011-241-0765

●東北酪農青年女性会議

〒980-0021 仙台市青葉区中央1-7-20
東邦ビル3階 全酪連仙台支所内
TEL 022-221-5381

●関東甲信越酪農青年女性会議

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-2
酪農会館 全酪連東京支所内
TEL 03-5931-8011

●中部酪農青年女性会議

〒460-0008 名古屋市中区栄1-16-6
名古屋三蔵ビル3階 全酪連名古屋支所内
TEL 052-209-5611

●西日本酪農青年女性会議

〒532-0011 大阪府淀川区西中島5-14-10
新大阪トヨタビル6階 全酪連大阪支所内
TEL 06-6305-4196

●九州酪農青年女性会議

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-15
事務機ビル7階 全酪連福岡支所内
TEL 092-431-8111



乳牛産地情報

令和4年5月1日現在

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	30~40	→	札幌管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で104.3%、苫小牧管内月計で98.5%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月~8月分挽が中心となります。夏分挽が多くなってくるため、庭先購買価格は、弱含みに推移すると見込まれます。4月の同地域の乳牛市場は上場頭数が多いうえ、道内需要が弱まっているため、相場は弱含みに推移しました。資源についてはF1腹・雌雄選別腹ともに十分に確保できるものと見込まれます。また、和牛受精卵移植腹も一定数あります。出回り頭数は少ない地域ではありますが、優良牛や高能力牛の多い地域でもありますので、ご希望がございましたらお問合せください。
	初妊牛	52~62	⇐	
	経産牛	30~40	⇐	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~40	⇐	根釧管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.5%、中標津管内月計で102.8%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月分挽が中心となります。夏分挽が多くなること、4月の同地域の乳牛市場が弱含みで推移したこと、庭先購買価格は弱含みとなるものと見込まれます。腹別ではF1腹・雌雄選別腹の価格差は小さくなってきており、和牛受精卵移植腹についても他の腹と同様に弱くなってきています。初妊牛の相場動向や、離農セールが開催されていることから、経産牛も同様に、やや弱含みで推移してきております。
	初妊牛	55~63	↓	
	経産牛	33~40	⇐	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	30~40	↓	帯広管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で103.6%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月~8月分挽が中心となります。夏分挽が多くなってくるため、庭先購買価格は、弱含みに推移すると見込まれます。4月の同地域の乳牛市場は上場頭数が多くありましたが、春分挽が中心であったため、相場はやや強含みに推移しました。資源についてはF1腹・雌雄選別腹ともに十分に確保できますが、雌雄選別腹に比べてF1腹の引き合いが強い状態です。また、育成牛についても道内需要が落ち着いているため、5月の庭先購買価格は弱含みに推移するものと見込まれます。
	初妊牛	55~65	⇐	
	経産牛	30~40	⇐	
道北管内	育成牛(10-12月令)	26~36	⇐	道北管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で103.7%、北見管内月計で103.7%の実績となっております。5月の初妊牛動向といたしまして、7月中旬~8月中旬分挽となります。春分挽から夏分挽に切り替わることに加えて、資源頭数も前年並み以上と見込まれます。また、生乳生産抑制の影響も考えられるため、初妊牛相場はやや弱含みになると予想されます。腹別では、F1腹の引き合いが強い状況が続くと見込まれます。育成牛においては、来夏分挽予定牛となり、資源頭数も増加するものと思われ、相場はやや弱含みになると見込まれます。経産牛においても、初妊牛と同様の状況に先月よりやや弱含みで推移するものと見込まれます。
	初妊牛	52~62	⇐	
	経産牛	30~40	⇐	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30~40	⇐	道内の4月中旬までの生乳生産量前年比は103.0%の実績となっております。道内長い冬を越え、春が訪れ畑作業のスタートする時期になりました。5月の初妊牛動向といたしまして、夏分挽に差し掛かることに加え、渦巻く世界情勢と酪農情勢不安から道内外の酪農家の導入意欲が減少していることが予想され、やや弱含みの相場展開になると見込まれます。育成牛・経産牛についても同様に推移するものと見込まれます。資源については、和牛授精率が上がっておりF1腹の資源が豊富なこと、雌雄選別腹も安定して出回っていることから、道内各地域、十分に確保出来ております。導入計画がございましたら、お早めに弊社担当者までご連絡頂き、要望に合った搾乳用素牛を供給して参りますのでどうぞ宜しくお願い致します。
	初妊牛	55~65	⇐	
	経産牛	30~40	⇐	

今月の表紙



今月の表紙は「第11回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「おいしいかい!!!」(新潟県 川端嘉博氏撮影)です。

令和4年5月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 5月号 No.680

●編集・発行人 工藤文彦

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館

TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

編集後記

- 7月に第50回全国酪農青年女性酪農発表大会が東京で開催されます。全国から酪農家の皆様が集まるのは実に3年ぶりとなります。コロナウイルス感染防止対策を実施し開催いたしますので、皆様とお会いできることを期待しています。各会議からの発表については来月号でお伝えする予定です。楽しみにお待ちください!
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

今月の

らくらのうこどもギャラリー

入賞作品紹介



おさんぽいこうよ

東広瀬こども園 6歳（中部） 杉浦 慈栄

今月の入賞作品は…

東広瀬こども園 6歳（中部）の杉浦慈栄さんの作品です。

桜の木の下の牛さんが描かれた春のある1日を感じさせる作品です。緑の草の上に散った花びらのような赤い線の塊がリズムカルに画面に配置され、絵にアクセントを与えています。牛さんもお花見を楽しんでいるかのようにです。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第47回らくらのうこどもギャラリー」で全国198点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議